

回答日	質問内容	回答
2025/3/19	県内での転勤が多いか	基本的には福岡県内での異動が多いです。ただし、東京や大阪、海外にも事務所があるため、県外へ異動する場合があります。その他、国や他都道府県への派遣もあります。
2025/3/19	どのようなときに県外、国外の異動があるか	東京や大阪、海外の事務所に異動する場合のほか、国や他都道府県へ派遣される場合です。配属先については、本人の希望や適性なども考慮した上で決定します。
2025/3/19	男女の育児休業取得率について	令和5年度の男性育児休業取得率は75.0%、女性育児休業取得率は100%です。
2025/3/19	女性職員はどのくらい長く働いているのか	令和6年度の知事部局における女性職員の継続勤務の割合は84.4%です。 ※継続勤務の割合とは、採用後10年でどの程度の人が仕事を続けているかの比率になります。
2025/3/19	男女比について	令和6年度の知事部局における職員の男性比率は64.6%、女性比率は35.4%です。
2025/3/19	風通しのよい雰囲気づくりのためにしている工夫や制度はあるか	職場の活性化に向けて、職員全員で話し合っ改善に取り組んだり、若手職員の自由な発想で業務の効率化を実現する制度などがあります。知事が若手職員と意見交換を行う機会もあり、様々なアイデアを積極的に採用する職場風土の醸成に努めています。
2025/3/19	県庁職員は住民の方と関わる機会が少ないか	部署や担当業務にもよりますが、少ないとは言えません。特に出先機関は、より住民の方に近い業務を行っていますので、住民の方と関わる機会が多いです。また、住民の方だけでなく、企業や国、他自治体の方と直接接する機会もあります。
2025/3/19	行政職のキャリアについて具体的に知りたい	知事部局の行政職における昇任については、主事→主任主事→係長級→課長補佐級→課長級→次長級→部長級となっています。昇任のペースについては、人によって異なるため、一概にお答えすることはできません。
2025/3/19	女性職員の普段の仕事着はどんな服装がよいか	明確なルールはございませんが、公務を行うに当たり、県民の皆さまからの信頼を損なうことのないよう、公務員としての品格を保つ必要があります。このため、①清潔感のある服装、②相手に失礼にならないよう礼儀をわきまえることを意識した服装を選択する必要があります。

2025/3/19	福岡県が一番力を入れている事業は何か	<p>一番というお答えは難しいですが、福岡県では、県民の皆さまの命と健康、生活を守ることを第一とし、「1000億円の人づくり」、「県内GDP20兆円への挑戦」、「安全・安心で活力ある社会づくり」の3つの柱のもと、少子化の進行や人手不足への対応、賃金と物価の好循環の実現、頻発化する自然災害や新興感染症への対策、デジタルや先端技術の発展など、さまざまな施策に取り組んでいます。施策の具体的な内容については、予算概要や「福岡県総合計画」をご覧ください。</p> <p>【令和6年度（2024年度）予算について】 https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/reiwa6nenndotousoyoyosann.html</p> <p>【福岡県総合計画】 https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/sougoukeikaku2022-2026.html</p>
2025/3/19	新規採用職員の研修制度について	<p>基本研修として、まず入庁して最初に1週間程度の新採用職員研修があり、大野城市にある研修所に集まって、仕事の基本や県行政の仕組みなどについて学んでいただきます。その後も職層に合わせた主任研修や係長研修といったものがあります。さらに、+αで自分の能力を高めたいという方のために専門研修といったものがあり、業務上必要となる知識やノウハウを取得したい場合に、自分が希望するコースを選んで受講できます。</p>
2025/3/19	採用後の研修は充実しているか	<p>加えて、派遣研修制度として、国や他県、市町村、民間企業などに1～2年程度の期間派遣されて、仕事を通じて学んでいただく制度があります。</p> <p>その他、自己啓発を支援するため、法律の基礎知識やストレスマネジメント、ビジネス基礎力向上などのeラーニング講座があります。</p>
2025/3/19	(高原さんについて) 障がいのある方と直接関わる中で工夫した点はあるか	<p>(高原さん)</p> <p>障がいがあるからこの作業は難しい、といった決めつけや思い込みを排除することです。デジタル化作業を受注して工賃を上げる取組も、この考え方がもたっています。</p>
2025/3/19	職務内容が変わる際、どのように新しい職務へ適応していくのか	<p>(山口さん)</p> <p>企画部門から福祉部門に異動した最初の人事異動のとき、福祉部門の用語が全く分からず、相手の伝えたいことを理解するのに苦労した記憶があります。</p> <p>人と話すことで解決策が浮かぶこともあるため、先輩の助言を聞き、上司と認識を共有することが大切だと思います。</p> <p>(高原さん)</p> <p>前任者からの引継書や実績を確認し、勉強したり周囲の人に聞いたりしながら業務を進めていきます。電話対応をするほど学べることも多いです。1年目は学ぶことで精一杯ですが、2年目以降は1年目の反省をもとに改善しながら進めていきます。</p>

2025/3/19	県庁で働き始めた前と後で、価値観や考え方が変わったことはあるか	<p>(山口さん)</p> <p>福祉部門に異動した後、年金受給額の少ない高齢者の生活保障として生活保護制度が利用されている現実を知り、公的年金制度の給付水準に対する見方が変わりました。</p> <p>(高原さん)</p> <p>入庁前は、下っ端として仕事を手伝うのだろうという、甘えた考えがありましたが、組織で課題を解決していく経験を経て、自分の担当業務は、上司よりも誰よりも自分が1番詳しくなければいけないという考え方に変わりました。</p>
2025/3/19	<p>どのような後輩と働きたいか。</p> <p>また、準備しておくこととは何か。</p>	<p>(山口さん)</p> <p>学ぶ姿勢をもった方と働きたいです。世代の異なる人との交流、身近な人との会話、読書などを積極的に行い、自分とは違う考え方があることを知って、自分の視野を広げてください。視野の広さが業務を進める上で必ず役に立ちます。</p> <p>(高原さん)</p> <p>話しやすい人、学んだことを次の業務に活かせる人、自分から進んで動く人と働きたいです。また、ワードやエクセル、パワーポイントの練習をしておく、業務に役立つと思います。</p>
2025/3/19	<p>(山口さんについて)</p> <p>河川管理課にいたときに夜間・休日の勤務もあったとのことだが、それは所属していた期間ずっとそのような勤務形態だったか。</p> <p>また、他の部署にもそのような働き方をするとところはあるか。</p>	<p>(山口さん)</p> <p>洪水、雨水出水、津波又は高潮による水災の警戒、防御及び被害軽減を目的とした水防業務は、出水期（梅雨及び台風の時期）に多く発生します。</p> <p>年度初めに水防班を編成し、当番班が初動対応を行うため、年中無休ということはありませんでした。</p> <p>出水期か非出水期かにかかわらず、福岡県内に気象注意報（大雨、洪水、高潮又は津波）が発表されたとき、最初に情報連絡活動を目的とした福岡県水防準備本部（第1配備）を設置します。</p> <p>同準備本部を組織する主な所属は、河川管理課、河川整備課、道路維持課、砂防課及び管轄のダム管理出張所です。</p>
2025/3/19	入庁前と後を比べて、以前苦手だったけれど、克服できたことはあるか	<p>(山口さん)</p> <p>業務を進めていくと、行政処分など実務上結論を出さなければならないことが数多くあります。</p> <p>あまり四角四面な対応に終始せず、実情を踏まえて対応することを心掛けるようになりました。</p> <p>(高原さん)</p> <p>話し合い等の場で積極的に自分の意見を言ったり、連絡調整したりすることが苦手でした。事前の予習や、TODOリスト作成により確認事項を明確にするなど準備の徹底、上司や先輩の交渉の進め方を見て真似するようにし、以前よりはできるようになりました。</p>